

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	ページ
32112	こども本の森開設準備事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	2
32112	坂の上の雲ミュージアム企画展示事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	3
32112	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	4

令和7年度 松山市事務事業シート（令和6年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601
------	-------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	----------

1.事業概要【Plan】

事業名	こども本の森開設準備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	1:直営	
32112							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略		市長公約
政策	都市全体の価値や魅力を向上する		○	－	○	○	
施策	選ばれる都市づくり	根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例 松山市坂の上の雲ミュージアム条例施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則				
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり						
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用						
目的・背景	建築家・安藤忠雄氏から提案のあった「こども本の森 松山」の坂の上の雲ミュージアムへの増築について、令和7年7月の開設を目指し、準備を進めている。						
対象・内容	市民に対して、プレイベントの開催や情報発信を行い、オープンに向けた機運の醸成を図る。 寄附者である安藤忠雄建築研究所等と協議を行いながら、図書や備品を購入し、オープンに向けた準備を進める。 「こども本の森」内部デザイン設計等を委託し、他市「こども本の森」との関連性がありつつ松山ならではの要素を盛り込んだ選書や内部デザイン等を行うことで、「こども本の森 松山」のイメージや利便性の向上を図る。 有識者による懇話会や庁内関係者による検討会を実施し、利用環境(ソフト面)の整備を図る。						

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光資源開発費
事業費／財源		令和5年度	令和6年度	令和7年度		主な 経費 (千円) 【R6 決算】	図書購入費		7,422
予算 (千円)	事業費計	1,426	30,791	21,942			選書及び内部デザイン設計等業務委託料		6,215
	国費・県費								
	市債			2,200					
	その他		27,248						
	一般財源	1,426	3,543	19,742		備品購入費		3,970	
決算 (千円)	事業費計	1,575	23,533			主な 取組 内容 【R6】	・開設に向けた図書や備品の購入。 ・機運の醸成を図るための周知啓発やイベントの実施。		
	国費・県費								
	市債								
	その他		21,857						
	一般財源	1,575	1,676						
	(執行率)	110%	76%						
人役	正規職員	0.4	1.0	1.0		特記 事項			
	その他	0.0	0.0	0.0					
	合計	0.4	1.0	1.0					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (最終目標年度)	-	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和6年度)	
	目指す方向性	単位							
活動 指標	メディアでの情報発信		目標	—	50	50	-	工事の進捗や関連イベント情報などSNSの投稿を毎年実施したほか、広報まつやまやラジオ等でPRに努めた。	
			実績	10	142				
	単年で増	回	達成率	—	284.0%				
			目標						
			実績						
			達成率						
事業 評価	評価	期待した成果をあげることができた。							
	理由	「こども本の森 松山」の工事進捗情報や準備状況のほか、他市「こども本の森」の情報も連携しながら発信することで、市内外の幅広い世代に関心を持っていただき、機運の醸成を図ることができている。							
課題	各種情報発信やイベントの実施等により、多くの人に「こども本の森 松山」を身近に感じていただくことが必要。					今後の 方向性	現行のまま継続	左記の 理由	今後もオープンに向けた準備を進めるとともに、「こども本の森 松山」に親しんでもらえるイベント開催等に努め、さらに多くの方々に当該施設の魅力を伝えていく。

令和7年度 松山市事務事業シート（令和6年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601
------	-------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	----------

1.事業概要【Plan】

事業名	坂の上の雲ミュージアム企画展示事業		事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	2:委託	
32112								
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略		市長公約
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			○	○	○		○
施策	選ばれる都市づくり							
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり		根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例				
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用			松山市坂の上の雲ミュージアム施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則				
目的・背景	開館前に開催した「坂の上の雲 記念館展示専門委員会」からの答申を最大限に尊重し、毎年テーマを新たに企画展を開催している。多角的な視点から小説『坂の上の雲』の時代と世界に関する企画展を開催し市内外へ広く発信することで、市民に『坂の上の雲』のまち松山への愛着と誇りを感じてもらい、市外の方々に「行ってみたい」「住んでみたい」と思ってもらうことを目的としている。							
対象・内容	松山市民、観光客を対象とした企画展示 ・坂の上の雲ミュージアム企画展示の企画、調査、展示設計、展示制作を行う。(2月頃展示入れ替え) ・企画展示に関連した記念講演会等を行う。 ・企画展示の図録を製作する。 ・音声ガイドに関する業務を行う。(内容更新、機器の賃借) ・そのほか大規模に行う展示にかかる業務を行う。							

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光資源開発費
事業費／財源		令和5年度	令和6年度	令和7年度		主な 経費 (千円) 【R6 決算】	展示・映像制作及び設置 等業務委託料		8,030
予算 (千円)	事業費計	26,197	28,377	29,813			展示基本設計業務委託 料		3,960
	国費・県費						資料借用・返却輸送等業 務委託料		3,085
	市債								
	その他	1,440	1,740	1,805					
	一般財源	24,757	26,637	28,008					
決算 (千円)	事業費計	23,764	23,989			主な 取組 内容 【R6】	第18回企画展テーマ展示「あしは、`何、 になろうか―『坂の上の雲』にみる明治の 気分」を開催。		
	国費・県費								
	市債								
	その他	1,114	1,820						
	一般財源	22,650	22,169						
	(執行率)	91%	85%						
人役	正規職員	3.5	3.5	2.7		特記 事項			
	その他	0.0	0.0	0.8					
	合計	3.5	3.5	3.5					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和6年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	メディア等へのPR(広告)		目標	850	850	850	850	SNSの投稿を通年実施したほか、広報まつやまやラジオ等で定期的なPRに努めた。	
			実績	862	1052				
	単年で増	回	達成率	101.4%	123.8%				
成果指標	入館者数		目標	110,000	130,000	140,000	140,000	令和6年9月から令和7年3月にかけてスペシャルドラマ「坂の上の雲」が再放送されたことにより、坂の上の雲ミュージアムへの注目度が高まり、企画展を観覧される方が増加した。	
			実績	114,205	145,474				
	単年で増	人	達成率	103.8%	111.9%				
事業評価	評価	期待した成果をあげることができた。							
	理由	「こども本の森 松山」増築工事を実施しながらの開館であったが、インバウンドの影響のほか、スペシャルドラマ「坂の上の雲」の再放送の影響もあり、来館者数が増加した。登場人物に焦点を当てた特集展示を実施したほか、SNS等の活用で幅広い層への周知が功を奏したといえる。							
課題	今後も多くの来館者が訪れるよう、市民や観光客、研究者などさらに幅広い世代へ周知・啓発を図る必要がある。					今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	今後も毎年新しい企画展を開催することにより市内外多くの人に小説『坂の上の雲』のメッセージを伝えていく。

令和7年度 松山市事務事業シート（令和6年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601
------	-------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	----------

1.事業概要【Plan】

事業名	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業			事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	3:指定管理
32112								
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】			各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約
政策	都市全体の価値や魅力を向上する				○	○	－	－
施策	選ばれる都市づくり			根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例 松山市坂の上の雲ミュージアム条例施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則			
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり							
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用							
目的・背景	坂の上の雲ミュージアムは小説『坂の上の雲』の3人の主人公(正岡子規、秋山好古、秋山真之)が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れた『坂の上の雲』を軸とする21世紀のまちづくり構想の中核施設として誕生した。 小説に描かれた主人公の足跡や明治という時代に関する「展示機能」をはじめ、小説ゆかりの史跡の魅力を紹介する「フィールドミュージアムガイダンス機能」、地域主体で行われる地域資源活用の取組などの「まちづくり支援機能」を持った複合施設として、訪れた人々が時の流れについて感じ、考える場を提供することを目的としている。							
対象・内容	資料調査、展示物の維持管理、充実、周知啓発、各種活性化事業を実施し、坂の上の雲ミュージアムの利用促進を図る。 坂の上の雲ミュージアムの維持管理に指定管理者制度を導入し、施設の安定稼働を図る。 市民に対して、各種講座(ミュージアム講座、大学連携市民講座)や定例イベント、子ども向けワークショップ等の開催・情報発信を行い、利用促進を図る。 観光客に対して、関係部門や県内外の博物館等との連携によるPR活動を行い、利用促進を図る。 外国人に対して、施設案内パンフレット等の多言語化を実施し、利用促進を図る。							

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光振興開発費
事業費／財源		令和5年度	令和6年度	令和7年度		主な 経費 (千円) 【R6 決算】	指定管理料		93,434
予算 (千円)	事業費計	129,995	144,806	197,993			中央監視装置更新工事費		13,200
	国費・県費						展示情報システム再構築 業務委託料		6,884
	市債			39,600					
	その他	25,040	23,808	32,070					
	一般財源	104,955	120,998	126,323					
決算 (千円)	事業費計	119,422	139,358			主な 取組 内容 【R6】	・指定管理者制度による施設維持管理及び運営。 ・資料調査、展示物の維持管理、充実、周知啓発、各種活性化事業等の実施。 ・スペシャルドラマ「坂の上の雲」再放送記念事業として、トークセッションを開催。		
	国費・県費								
	市債								
	その他	22,295	26,166						
	一般財源	97,127	113,192						
	(執行率)	92%	96%						
人役	正規職員	3.4	3.7	3.5		特記 事項			
	その他	1.0	1.0	1.2					
	合計	4.4	4.7	4.7					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和6年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	2階ホール等を活用したイベント・展示等の開催		目標	100	100	100	100	まちづくりの中核施設として、指定管理者や市民団体による各種イベントの定期的な実施に努めた。	
			実績	114	103				
	単年で増	回	達成率	114.0%	103.0%				
成果指標	入館者数		目標	110,000	130,000	140,000	140,000	令和6年9月から令和7年3月にかけてスペシャルドラマ「坂の上の雲」が再放送されたことにより、坂の上の雲ミュージアムへの注目度が高まり、来館者数が増加した。	
			実績	114,205	145,474				
	単年で増	人	達成率	103.8%	111.9%				
事業評価	評価	期待した成果をあげることができた。							
	理由	「こども本の森 松山」増築工事を実施しながらの開館であったが、インバウンドの影響のほか、スペシャルドラマ「坂の上の雲」の再放送の影響もあり、来館者数が増加した。ドラマ放送を記念したイベントや、SNS等の活用で幅広い層への周知が功を奏したといえる。							
課題	「こども本の森 松山」の開室情報も含め、今後も市内外の幅広い世代へのミュージアムの魅力発信を継続して行うことが必要。					今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	今後も坂の上の雲ミュージアムに親しんでもらえるイベント開催や来館者サービス水準の向上に務め、市内外多くの人に小説『坂の上の雲』のメッセージを伝えていく。